

月刊 おかじょうき

<http://www.okajoki.com/>



2021

7

無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし	4
会員雑詠集「無人駅」	7
■例月句会結果■	
おかじょうき川柳社 6月句会	19
川柳吟行会「ぼ」	26
十和田たてがみ川柳会5月句会報	30
■連載■	
「深艘心理」 奈良一艘	18
Infomation	33～

カンテラ

むせり

去る5月29日、新型コロナウイルス・ワクチンの第1回目接種を終え、6月19日に2回目接種の予定である。当柳社は、実際に人が集まって行う例月句会を4月から再開した。

再開したとは言え、それは懇親会のない句会。

参加者の大部分が2回のワクチン接種を終えたあたりで懇親会も再開したいと思っっている。それではカンテラに明かりを灯しましょう。

A群

とめどなく話が続き川になる

瀧尻善英

吉田州花さん、魔法のピフテキをどんな相手に食べさせ、どんな「魔法」をかけようとしたのですか？「アーブラカダブラ私のしもべになあれ」なんて呪文を唱えたりしてね(汗)

B群

みじん切りしたパセリから果たし状	夏草ふぶき
私似の子もB面の水たまり	きささぎ彼句吾
ふんわりと手放す あじさいの雫	守田啓子
軟異抄とは空苺菜の塩いため	宮井いずみ
……ケトルが鳴りやまず	木村美映
あらあなたほんと雨雲だったのね	芝岡かへもん
ポピーからポピーへ風の設計図	ひとり静

ひとり静さん、「ポピー」が好きなようです。広辞苑で「ポピー」を引いたら「ケシ。ケシ科ケシ属の総称(英語名)。特にヒナゲシ(グビゾンソウ)の園芸上の通称。」とありました。グビゾンソウって虞美人草で

脳内にこじやれたバーが出来上がる	吉田吹喜
晩ごはん食べたし月も刻んだし	土田雅子
歯車が軋む 魔法をかけますよ	鳴海賢治
県外に行ってませんねが痒いこと	旅男
暗くなる前に合鍵みつけなきゃ	熊谷冬鼓
サククスとドラムとスツピンのベース	須藤しのすけ
言いたいこと半分は雨になり	柳本恵子
目を閉じて魔法使いになっている	葉 閑女
やってみる絹ごし豆腐的口調	辻井洋子
召しあがれビーフに魔法かけました	吉田州花

すよね。虞美人草から虞美人草へ吹く「風の設計図」があるなんて、そんな風なら吹かれてみたい。

C群

一日は男で過ごす五連休	安藤なみ
深緑の男に白線引き直す	小野五郎
黄昏のビギンとしては許せる範囲	奈良一艘
いきいきと穴を掘ってはピト埋める	まきこ
闇四つ集めてできた私です	米山明日歌

安藤なみさんは何にでもなれそうですが、「男」にもなれるのですか。休みが5日も続けば、1日くらいは特別な日じゃないと飽きてしまうものね。でも、この「男で過ごす」というのは、本当に「男」になつてしまうのではなく、女性的行動を制限して男っぽくするということかも知れませんね。違うだろうな…。

小野五郎さん、「深緑」は「ふかみどり」とも「しんりよく」とも読むんですね。上5だからこは「しんりよく」

と読めばいいのかな。「深緑の男」ってカッコイイなあ。そんな「男」に「白線」を「引き直す」のですか。津軽のアスファルト舗装路は毎年春になると白線を引き直すのですが、「深緑の男」も春先にシャキッと線を引き直すのでしょうか。そうすれば益々カッコよくなる、かも。ところで、男になった安藤なみさんのことじゃないですよね（汗汗）

奈良一艘さん、「黄昏のビギン」とは懐かしい。水原弘が1959年に出したシングルの曲だね。ちあきなおみも1991年にシングルで出している。この句は水原弘？それともちあきなおみ？「雨に濡れてたたそがれの街」で始まり「初めてのキス」で終わる詩は永六輔、作曲は中村八大。誰かがカラオケで歌っている「黄昏のビギン」を聴いて「まあまあだね」なんて言ってるのかな？違ふよな。もしかしたら一艘さん、「ふたりだけの♪たそがれの街♪並木の陰の初めてのキス♪」なんてデートでもした？

まきこさん、「ヒト埋める」って物騒ですね。埋めるの

は「人」でも「ひと」でもない「ヒト」なんだね。「人」だと埋葬許可が必要だものね。そんなことを思っていたら「人」と「ひと」は埋めたくないけど「ヒト」だったら埋めちゃってもいいような感じがしてきました（汗）それにしても、「ヒト」を埋める穴を「いきいきと」掘るだなんて、まきこさんコワイ方なんですな。

米山明日歌さん、そうでしたか。。「闇四つ集めて」ね。。「闇」ばかり「四つ」なんだよね。明日歌さんの今回の「無人駅」は、「一」から「五」までのシリーズになっていて、この句は4句目。次の句は「花ひらは寂しい音を五つもつ」です。そうか、明日歌さんは「闇」できていて、花びらがあつて、何かに触れると寂しい音がするの。ひっそり咲いているんだろうな。第1回日本レコード大賞受賞作「黒い花ひら」（永六輔作詞・中村八大作曲・水原弘歌）とは関係ないんだろうな。（汗）

おかしやうき川柳社会員雑詠集

無人駅

★無人駅6月月間賞

うふふふつと混ぜちやいけないもの混ぜる

きさらぎ彼句吾

まき(一)【まき】・青森県青森市】

いきいきと穴を掘ってはヒト埋める
金星が続く　しゃつくりが止まらない
じつくりと聞いてくれると言ったのに
潜って潜って君が見えない位置に着く
家族団らん真ん中辺のゲリラ豪雨

先月号のお気に入り
新品の表情筋で会いに行く　辻井洋子
会うときはいつでも新品のふたり。あこがれですね。

まみどり【まみどり】・青森県黒石市】

本日も普通の目覚めヨーグルト
止まらない程度にゆるやかな走り
あいまいに慣らされていた道すがら
こんなにも合わぬ気力と実行力
時間切れ明日は我が身に来たとして

先月号のお気に入り
もともっと泡立てないと午前2時　石橋芳山
そうなんです、時間が欲しい体力も気力も、

村井規子【むらいのりこ】・青森県大鰐町】

自粛って老化の玄関だったんだ
日本語は瘦せるわたくしは太る
瘡蓋の向こうは朝陽一句吐く
止めなさい腹は立つ時たてるべき
こんなにも岩手の何が凄いのか

先月号のお気に入り

村上あつこ【むらかみあつこ】・青森県青森市】

不死身の母が突然逝った五月晴れ
死んでから孝行なんて親不孝
握った手の温もりがまた蘇る
ひとつ飛び曾孫に会いに行ったらし
これからは自由にどこでも行けるね

先月号のお気に入り
男にはどうにもできない蟹気楼　小野五郎
女だっってもできないことありますよ！

三浦蒼鬼【みうらそうき】・青森県黒石市】

高卒の所々に変異株
休日の尻尾に檄を飛ばされる
フィルター越しに見てる矢印ひとつある
完投を意識している昼の月
「ん」の処遇首から下で考える

先月号のお気に入り
あかい昼あかい手紙をまっけている　米山明日歌
このドキドキ感が認知症防止につながるのかも知れない。

宮井いずみ【みやいいずみ】・大阪府大阪市】

言いつ分はさばの味噌煮にマヨネーズ
腐乱する一步手前の絶頂期
いちご大福　万葉集のまんなか
みんなの歌さあ空き瓶を持ち寄って
歎異抄とは空苺菜の塩いため

先月号のお気に入り
空くるり埴輪の口は開いたまま　ひとり静
爽やかな天気、ひととき憂さを忘れて埴輪になろう。

村上てる【むらかみてる】・青森県青森市】

老いてなお風穴あけて森を出る
光りかがやいた時もあつた土ふまず
杖ついて人の情けを知りました
恋文が父の検問にひっかかる
絵ハガキの最後に恋の一行詩

先月号のお気に入り
家中にやりかけの事たんとある　熊谷冬鼓
八十八才になった現在でもやりかけの事が多くまさに共
感致しました

守田啓子【もりたけいこ】・青森県青森市】

張りついた花びら雨の日の測量
漸くふたつ並んだ白い円柱形
ふんわりと手放す　あじさいの雫
心配はせぬよう雨後のグラジオラス
いつ咲いてもいいんだね芍薬の蕾

先月号のお気に入り
騙し舟はやく着きすぎてもアレだしね　小林茂子
「アレ」が絶妙。

柳本恵子【やなぎもとけいこ・奈良県奈良市】

五月の風をつかんで蝶になる
わらわらと記憶うすれて砂時計
言いたいこと半分は雨になり
渡された本にあなたの森を見る
雨上がり素直な自分とりもどす

先月号のお気に入り

葉 閑女【ようかんによ・青森県青森市】

留守電が切り札にする身上書
擬態です付度マシンじゃありません
くちなしの香りが招くさようなら
やめとくわ優しいだけの愛なんか
目を閉じて魔法使いになっている

先月号のお気に入り

吉見恵子【よしみけいこ・青森県青森市】

歓楽街立ち込む濃霧注意報
振り向けば五月若葉の点描画
独活ワラビ薊タラの芽野生の喉は
白つつじ風のうわさは黒猫の死
堪忍袋の緒を繕って月あかり

先月号のお気に入り

四ツ屋いずみ【よつやいずみ・北海道札幌市】

ベランダに並んだ黄色赤みらい
薫風と一緒に翔ぼうピアノマン
オスカルの瞳の星に騙された
仮分数動悸が治らぬようよ
タンスには金襴緞子全部ざんす

先月号のお気に入り
ワクチンをつつて渡り鳥の間
そのワクチンはいつ…？早く飛びたい
安藤なみ

吉田州花【よしだしゅうか・青森県青森市】

クリムトの春になろうと花筏
いっぱしの薔薇にはなったそれつきり
召しあがれビーフに魔法かけました
空席は埋めず私が逝く番に
針を持つ才能ぐらいなら少し

先月号のお気に入り
危うきは見えないものの骨密度
国家にも骨密度があるとしたら
吉見恵子

吉田吹喜【よしだふぶき・青森県弘前市】

病み上がりナマケモノですエジヤナイカ
脳内にこじやれたバーが出来上がる
輪郭がぼやけてとてもイイおんな
リモートの炭坑節に惚れました
ふるふると涙が落ちるデスタンス

先月号のお気に入り
騙し舟はやく着きすぎてもアレだしね 小林茂子
面白いなあ。いろんなストーリーが浮かびます。

米山明日歌【よねやまあすか・静岡県長泉町】

あと一つ赤をぬったら夕暮れる
二番目に光る蛇口をあけてみる
正解が三つもあつて病む右手
闇四つ集めてできた私です
花びらは寂しい音を五つもつ

先月号のお気に入り
生きるにはアウトコースのやや低め
なるほど、参考にさせていただきます。
芝岡かんえもん

渡邊こあき【わたなべこあき・青森県青森市】

チューリップかわいいだけの花じゃない
咲いて待つ白い水仙墓隣
椿落つ赤い絨毯踏めぬ道
パプリカが自問自答してる筈
あちこちに種を撒いては踏まれてる

先月号のお気に入り
少し淋しいくらいが自由より自由
少し淋しい私は、立派な(?)自由人、ですね。
吉見恵子

斎藤泰子【さいとうたいこ・秋田県大館市】

咲いて散る その工程のややこしき
現在を重ねる比喩が見つからぬ
雨天なら雨天のように息をする
ぼんやりと見えているのはきつと 幸
腹は括った出発前の上天気

先月号のお気に入り
少し淋しいくらいが自由より自由 吉見恵子
納得！あこがれます。

笹田隆志【ささだたかし・青森県青森市】

五月闇もうすぐ夏だお別れだ
憲法を素っ裸にしシャワーする
脱炭素がプルトニウムのレシピです
下剤ですトリチウム入り魔法瓶
ウルトラマン金曜日なら午後三時

先月号のお気に入り

須藤しんのすけ【すとうしんのすけ・青森県弘前市】

プラマイのプラス明日はバケーション
零時五分[2]で届く応援歌
サックスとドラムとスツピンのベース
セブンスターをピアニッシモに変えて
文芸部入部図書室迄夕日

先月号のお気に入り
オードリー・タンはおそらくコロケ派 ひとり静
いいえ、彼はガチガチのイガメンチ派です！

瀧尻善英【たきじりよしひで・青森県八戸市】

ガチャポンに夢が詰まったガラパゴス
満月の竹が割れないネグレクト
とめどなく話が続き川になる
じよっぱりが負けぬ風ニモ嵐ニモ
第4波なつて規則を守れない

先月号のお気に入り
吹き出物潰して過ぎてゆく時間 守田啓子
吹き出物を潰している時間のゆとりは心のゆとり。そう
ありがたいものです。

芝岡かんえもん【しばおかかんえもん・神奈川県横浜市】

あらあんだほんと雨雲だったのね
さびしい星を写しとつてる海である
離しませんよスカイブルーの足首を
人間の底にたまった砂糖水
何回も心に刺さる薔薇である

先月号のお気に入り
ファイティングポーズしたまま冬終わる 柳本恵子
何回もそんなことがあったよな気がします。

城後朱美【じょうごあけみ・福岡県八女市】

馬鹿にはできない草取り畑仕事
無理をして明日の予定がぶつ飛んだ
今日は雨無理をするなど論される
霧の中に見えない着地点
母さんを不安にさせた三日間

先月号のお気に入り
人間の煮詰まるような音がした 芝岡かんえもん
有り余る時間を弄んでいます。煮詰まっています私

旅男【たびお・青森県五所川原市】

県外に行つてませんねが痒いこと
やっつけば行つておけばと骨鳴らす
ギブスからコルセットへ社会の腹
盆栽の纏足ヒューマンのボンサイ
地球は真綿で首絡めつつ回る

先月号のお気に入り
放ぼつておけばいいのよ鳩笛ポツ 守田啓子
独り言にピツタリ。私にピツタリ。少年の頃から山鳩の
声が気に入っています。

田中薫【たなかかおる・青森県弘前市】

良く笑う菜の花畑でした うふ
抜け道が見当たらぬ謝罪の行方
影だけはまだ一丁前 ノーマスク
生きているヒールド半径3キロ
今の雲 ほらフレームから出ないで

先月号のお気に入り
子を産んでそこから気化が始まった ひとは
わたしもそんな感じ、、、

辻井洋子【つじいようこ・青森県青森市】

空白を埋めるいつもの豆腐汁
とりあえず味覚が同じ輪に入る
やってみる絹ごし豆腐の口調
鏡見る時の流れを受け入れる
線香花火弾け具合がいじらしい

先月号の
お気に入り

春風になるうとしたのそれだけよ 齋藤泰子
それくらい、大丈夫、許されるんじゃない？

土田雅子【つちたまさこ・青森県青森市】

教えます優しい野菜の殺し方
コロッケに醤油我が家の伝統だ
縁結びの小人棲みつくレストラン
晩ごはん食べたし月も刻んだし
ちくわ麩に映るムーミン谷の地図

先月号の
お気に入り

チューリップ立ち位置なんて気にしない 柳本恵子
気ままに咲いて心ゆくまでお喋りするのです。

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

また甘いものほしくなる髪を結う
亀虫が病氣療養中死亡
傾いた部屋かたづけに嫁が来る
歯車が軋む 魔法をかけますよ
安物のゼニ失いで生きてきた

先月号の
お気に入り

春風になるうとしたの それだけよ 齋藤泰子
「それだけよ」、軽さが響きました。

ひとり静【ひとりしずか・奈良県大和郡山市】

野いばらの野いばららしき守り方
ポピーからポピーへ風的设计図
道なりに行けば地球に出会えるわ
間違いはちゃんとお皿に載っている
眠っていたらしい大切な時間

先月号の
お気に入り

順番が違つトマトの洗い方 宮井いずみ
この頃は順番が違つと思つことばかり。

夏草ふぶき【なつくさふぶき・青森県青森市】

諦めてください麺が伸びちゃうよ
みじん切りしたパセリから果たし状
劳いの花一輪の破壊力
雑巾が汚れた水を嘆いてる
陽だまりで命をのばすナツツバキ

先月号の
お気に入り

白足袋の小鉤一枚欠けたまま 坂本清乃
白い足首が艶めかしく欠けたままでいいのかも。

奈良一艘【ならいつそう・青森県弘前市】

黄昏のビギンとしては許せる範囲
打算的男のジャズは甘く弾く
みをさいてあたまわつてもいいぬこと
新発売！ルイビトンから神おむつ
ミヤンマーの月は歪んで革命軍

先月号の
お気に入り

ひとは【ひとは・青森県黒石市】

炭酸が抜けて惰眠の盆の窪
盆の窪から漏れる私のらりるれろ
らりるれろまだ解凍ができません
できません亡母の口癖まだ耳に
耳に栓して泳ぐ世間の非常識

先月号の
お気に入り

花よりもワインが似合う部屋にする 葉 閑女
素敵な大人ですわ〜♪

むぎし【むぎし・青森県蓬田村】

にんじんごぼうだいこんはんにははらみつた
蔀戸が時々開く後頭部
涙の池の青い金魚を見ましたか
金子兜太は合掌土偶になったとき
観音の乳房の奥のはなぶぶき

深艘心理

ゴスペルを歌う隣のところてん
本当に怖い話はこれからよ

まきこ
村上あつこ

(会員雑詠集 無人駅5月号)

昔、あるところにA男という23歳の若者がいた。背は高くまあまあの男前だが、少し優柔不断な性格と芯の弱さがやや気になる程で、至って普通のどこにでもいる健康な若者だった。やがてある日縁談好きなおばちゃんの手により、とある海辺の町へおばちゃんの助手として魚の買い付けに行くことになった。市場の開く前に着いたので、知人の家へ寄ることに。知人夫婦と娘の3人家族に歓待され朝飯をご馳走になる。それが見合いだとは露ほども知らない若者は食欲に釣られて3杯もお代わりをするほど遠慮なくガツガツと喰いまくった。娘は色白でスリムな22歳。そんな縁でなんと一ヶ月後にはバタバタと結婚。よく知りもせず一緒にあった2人だったが、なかなか気立の良い娘で仲睦まじい夫婦だった。第1子が

生まれるまでは。その後2子、3子と生まれる毎にまるで人が変わったようにどんどんと嫁の立場は強くなってゆき、A男の発言権は消滅していった。その後は飼いな犬よりも下の位置となり、「お黙り!」「お座り!」「ハウス!」とまでの扱いとなるのだ。もはやゴスペルを歌うしか叶わなくなったところてんA男だったが、じつと3人の子供たちが巣立つのを罵声に耐えながら待っていた。さて、そして本当に恐ろしく怖い話はこれから……。
be continue
なくんていう妄想とフィクションの世界にとっぷりと耽ることのできる掲句2句を連作として取り上げてみた。ふっふっふ。
川柳って、限りなく面白い。

納豆飯(ニル)

6月5日(土) 午後1時～ アウガ5F小会議室

▼出席者(10名)

守田啓子・熊谷冬鼓・渡邊こあき・小野五郎・葉閑女・土田雅子・夏草ふぶき・笹田隆志・むさし・奈良一艘

▼投句者(26名)

岸井ふさゑ・安藤なみ・米山明日歌・宮井いずみ・柳本恵子・吉松澄子・吉田吹喜・城後朱美・青砥和子・鳴海賢治・石橋芳山・芝岡かんえもん・村井規子・まきこ・郷田みや・田中薫・四ツ屋いずみ・斎藤泰子・岩根彰子・まみどり・きさらぎ彼句吾・村上あつこ・旅男・須藤しんのすけ・坂本清乃・田久保亜蘭

おかじょうき川柳社

6月例会

席題『ぼこぼこ』

青森県青森市

守田啓子選

【佳作】

おでん鍋昨夜のハンペン浮いてくる

小野五郎

雨どいが発声練習する朝だ

土田雅子

幸運のポストが見える蟹気楼

渡邊こあき

風穴からぼこぼこあがるバラ詩集

笹田隆志

メッセンジャーRNAが浮いてる水溜り

小野五郎

ポコポコと活字が踊る二日酔い

葉 閑女

もぐら穴塞ぐ力がでてこない

渡邊こあき

そのポコポコを認知したのかね君は

奈良一艘

不発に終わった夢の数ポコアポコ

小野五郎

ぼこぼこはじけて不倫報道聞きあきる

熊谷冬鼓

【秀逸】

ポコポコが棲みついている股関節

むさし

モッコウバラの開花時間を知っている

土田雅子

ぼこぼここと死に零れてゆく砂時計

奈良一艘

【特選】

映画館の中で産み落とされた僕

夏草ふぶき

『生命の軽さと重さがぎっしりつまった

一句

席題『ぼこぼこ』

青森県青森市

熊谷冬鼓選

【佳作】

雲間からぼこつと二十日月が出る

葉 閑女

ライラックの香りぼこぼこ桜桃忌

土田雅子

ぼこぼこ52ヘルツのクジラ行く

夏草ふぶき

嘘がまた衣替えして闊歩する

夏草ふぶき

雨どいが発声練習する朝だ

土田雅子

モッコウバラの開花時間を知っている

土田雅子

ポコポコが棲みついている股関節

むさし

不発に終わった夢の数ポコアポコ

小野五郎

ポコポコその一、認知症的怒り

奈良一艘

つぐなえたかなあ ぼこぼこ雲が湧く

守田啓子

【秀逸】

そのポコポコを認知したのかね君は

奈良一艘

私のくぼみに蜚群れたがる

守田啓子

反撃をやめてもポコポコ叩かれる

むさし

【特選】

ぼこぼここと死に零れてゆく砂時計

奈良一艘

『悲しいが誰も皆死への時間を刻んでいる。』

宿題『根』

青森県青森市

渡邊こあき選

【佳作】

腐つてもなんだかんだと芽吹く芋
 根つからの陽気で妻が攻めてくる
 頑張れよ頑張れよって根っこ踏む
 切つても切つても根曲がり竹の生える背
 考える葦の根つこの腐敗臭
 恋でした根こそぎ持つていかれたわ
 根曲がり竹一本ほどの困りごと
 翔平の大根切りが売れてます
 根ぐされに気づかず溺愛をしてる
 逃げられませんが根が生えていますので
 根はいいヤツとわかっていますオニヤンマ
 ハニートラップ美しい大根足で
 麻混の靴下根つからの陽気者
 安定は根つこの大好きな言葉
 雑草の精を殺めたかもしれず

坂本清乃
 斎藤泰子
 夏草ふぶき
 むさし
 米山明日歌
 まみどり
 守田啓子
 守田啓子
 菅田隆志
 まみどり
 鳴海賢治
 四ツ屋いずみ
 吉田吹喜
 柳本恵子
 村井規子
 小野五郎

切り干し大根に悪意はございません
 ベッドの脚がグダリ沼に延びていく
 微かに人間でしたか根が生えた

束の間愛される切り花にされる

根回しは失敗だった既読スルー

【五客】

おすすめはそうねツムラの葛根湯
 だめな日はだめきっぱりと酢蓮根
 アクセスは大根畑から5分
 蓮根が海の碧さにあこがれる

根詰まりのまま大人になつちまう

【人位】

生きること 大根摺ること絞ること

【地位】

ステイホーム根腐れしたわ立てません

【天位】

濡れた手で根のないものにすがる癖

『濡れた手で根のないものにすがるなんて！』

柳本恵子
 小野五郎
 田久保亜蘭
 きさらぎ彼句吾
 土田雅子
 吉松澄子
 宮井いずみ
 吉松澄子
 奈良一艘
 まきこ
 奈良一艘
 守田啓子
 米山明日歌

宿題『眠る』

青森県青森市

小野五郎選

【佳作】

よく眠るペンもあなたも青時雨
 眠るのはゴメンナサイを言つてから
 おとなしく砂糖にまみれ眠りなさい
 夢の木を揺すれば落ちてくる尻尾
 二度寝するなんて五月の眠り姫
 眠れない十五の海に責められて
 一昨年と同じ匂いのする月夜
 コロナ禍の永眠と仮眠の間
 脱皮する途中居眠りしてしまふ
 ヒツジにはヒツジの事情電算機
 眠るように逝つたよビギン・ザ・ビギン
 寝落ちさせたのは羊水の潮騒
 本当に眠りたい時はマスクする
 ラの音で眠りなさいな大人たち
 おやすみは祈り あしたがあるように

宮井いずみ
 岸井ふさゑ
 青砥和子
 むさし
 郷田みや
 守田啓子
 須藤しんのすけ
 吉田吹喜
 まきこ
 まみどり
 奈良一艘
 きさらぎ彼句吾
 郷田みや
 芝岡かんえもん
 斎藤泰子

眠れる森の美女になってから五年

時短営業しています眠ります

仮眠中じょうずに水切りできなくて

よく眠つた芋とかかれた某スーパー

一人じゃ眠れない 二人だともつと

またしても刀背打ち海は眠れない

【五客】

鍵穴を掃除してから眠るボク
 良い年寄りはぐつすり無呼吸症候群
 手のひらのまどろみ ひと時の潮騒
 泥としてトタン屋根の上で眠る

雨の日のひとり ソファアになってゆく

【人位】

一年中光つて眠る燃料棒

【地位】

別室に透明感のある不眠

【天位】

モナリザが目をあけたまま眠ってる

『現実と虚構の狭間で生きていくしかなないことを思いしらされる。』

土田雅子
 鳴海賢治
 熊谷冬鼓
 坂本清乃
 吉田吹喜
 鳴海賢治
 土田雅子
 鳴海賢治
 熊谷冬鼓
 坂本清乃
 吉田吹喜
 鳴海賢治
 菅田隆志
 奈良一艘
 奈良一艘
 安藤なみ
 守田啓子
 菅田隆志
 田久保亜蘭
 むさし

宿題『自由詠』

青森県蓬田村 むさし選

【佳作】

アリの巣のとなりにアリの巣ができた
引き際は未定 陽気な冷や奴
時々はいいい子を脱いで息をする
正義感とはいつも枕がなじまない
チャタレーの森は明日まで禁欲
堅さならカボチャほどです淋しさは
透明の前で水色怖じ気づく
さぼり癖ついた三角定規です
コロナ地獄を背中に描いてる浮世絵師
捨て場なく夜霧に悪を混ぜている
はつなつの香りが痛い待ちぼうけ
日替わりの世界で羽化をする少女
混迷のキリトリ線を撫でている
ポテチぼりぼり充電しすぎのスニーカー
走り梅雨主治医のカンツォーネは無敵

鳴海賢治
まきこ
柳本恵子
きさらぎ彼句吾
石橋芳山
米山明日歌
村井規子
守田啓子
笹田隆志
石橋芳山
葉 閑女
須藤しんのすけ
芝岡かんえもん
熊谷冬鼓
葉 閑女

革命を考えているがんもどき
いずれ死ぬ 藍を濃くしてなりませぬ
吠え盛る犬に訓示を垂れてみる
海暮れてハマナスの棘尖りゆく
青空に線を引くのも悪くねえな

奈良一艘
守田啓子
葉 閑女
小野五郎
須藤しんのすけ

【五客】

やわらかく尖る春の日の卵
寂しくて煮込みウドンの中にいる
毎日根こそぎ移植する手帳
呼び鈴を押すと顔出す夏野原
コロコロクリーナーで孤独を捕まえる

奈良一艘
芝岡かんえもん
渡邊こあき
小野五郎
夏草ふぶき

【人位】

コースターに少しずらして置く話

郷田みや

【地位】

サバ缶の中に秘密が二つ三つ

柳本恵子

【天位】

ワクチンも打ったし納豆飯ラララ

奈良一艘

『川柳病がひどくならないワクチンをご存知ありませんか？』



おかじょうき川柳社：誌上句会

0 番線

課題と選者（2句詠・共選）

題：『一』

7/31 〆切

選者

榊 陽子 (兵庫県)

奈良一艘 (青森県)

投句方法

※誠に申し訳ありませんが、郵送・FAXでの応募は受け付けておりません。

【ウェブサイトからの応募】

http://okajoki.com/toku/0line.htmlへアクセスし、作品応募フォームから必要事項を記入して送信してください。



【メールで直接送信する場合】

メール本文内に「作品（2句まで）」「郵便番号」「住所」「氏名または雅号（ふりがな）」「電話番号」を明記し、件名に「0番線」として、**守田啓子宛**にメール送信してください。＜送信先アドレス：moriko@okajoki.com＞

投句料（※おかじょうき川柳社会員は無料です。）

1,000円（発表誌呈）*発表誌の送付をもって、投句料受領したものとさせていただきます。

◆振込先：郵便振替 No.02280-6-43112 口座名 おかじょうき川柳社

賞

特選の方に青森県特産品を贈呈。

川柳吟行会「ぽ」

課題『空』

最初は6人程度のささやかな吟行会だったが、今回で25回ということで驚いた。

コロナ大流行のせいで吟行が出来なくなり、メール参加が続いているが、今回は18名参加。投句54句と拡がった。

当日の参加者は6名だったが、事前にわからない語句を調べてきた人もいて、「が・の・は・を」の使い方にも意見が出された。約2時間で54句を論じるのは難しいが、充実した意見交換は参加した者だけが味わえる醍醐味である。ぜひ多くの人に参加して欲しいと思う。
(さち)

【8点】特×1・佳×6

客引きと行く裏道の天の川

須藤しんのすけ

【いずみ】天の川が裏道だなんて想像したこともなかった。でも、たしかに星々の明るさの影に裏道があるのかもしれない。【吉見恵子】「裏道の天の川」に男のロマンを感じました。【州花】怪しさがいい。束の間の天の川がいい。【文音】客引きという表の道から裏道に誘われていく男のロマン。健全な天の川が良い。【五郎】期待と不安の入りまじった胸中を表わした。【こあき】天の川じゃないところへ行きそう。【さち】クスツ。待っていたのは織姫か怖い天帝か？

【7点】特×3・佳×1

晴天というお気遣い 困るんです 守田啓子

【朱美】お気遣いにひかれた。体調不良で寝ているのに、外は晴天。悪いことしたから、天罰かな！【こあき】お出かけ日和。でもコロナ禍でどこへも行けないのです。癒される句でした。【隆志】空にむかっていう台詞がおもしろいです【旅男】ハイ、心のくもりに洗濯日和とか余計なお世話です。

【9点】佳×9

お線香持ったか青空持ったか 守田啓子

【旅男】まずは青空ですね。そして線香。足取りが見えます。【彰子】故人との濃密な関係性が「青空持ったか」に如実に表現されている。【いずみ】「持ったか」の繰り返しが快い。晴天のお墓参りはその死を受け入れていることを示唆しているのか。【規子】5月は身内の命日もあり、墓参りについて考えさせられた。青空を忘れない様にしなくちゃ。【州花】私は青空を持つたことがあるか考えた。【五郎】ユニークかつ新鮮な句。【こあき】青空を待ってお墓の草取りに。心に青空を持つといつでも行けるんですね。【隆志】5月に二度埋骨して悪天候にたたられた身にとっては、まさに実感のこもった句でした【冬鼓】省略の効いた句。お墓には明るい話題を報告したい。

【5点】特×2・佳×1

空中ブランコきのう約束したじゃない

宮井いずみ

【しんのすけ】空中ブランコと上から目線的な約束の取り合わせが、良い感じに緊張させる。超軽いリズム感の悪さが効果的。【五郎】軽い調子で責め立てている場面をユーモラスに表現した。【朱美】空中ブランコのはらはら感と約束。同じ。

飛んで飛んで何も見えないレース鳩 渡邊こあき

【州花】決めてしまえばゴールへ一直線。ちゃんと考えてから走ればいいのにといつも思う。【ふぶき】帰巢本能で飛ぶレース鳩は眼下の景色や風や木々のおいを楽しんでいない。日常を華やいだ日々にする気持ちでいたいな。【規子】ゆったりと空中散歩する楽しさを知らないはとが少しかわいそう

【4点】特×2

フクシマと同じ青空おなじ海 滋野さち

【夢香】東日本大震災から10年が経過いたしました。真の復興を切に願うばかりです。【吉見恵子】復興中の福島の人にとって、空と海はどんな風に見えることでしょう

う。この句は、特に何も言っていないが、自然と深い読みへと誘われる。

【4点】特×1・佳×2

賑やかな家具が残っている空き家 夏草ふぶき

【冬鼓】家は住む人がいてこそ。空き家になった今かつての賑わいを覚えているのは家具のみ。家具に寂しさを代弁させたのは手柄。【しんのすけ】過去と現在の具体的な対比に優さを感じる。【彰子】空き家なのに賑やかな家具の息遣いが聴こえた。

【4点】佳×4

種あかしされてつまらぬ空になる 渡邊こあき

【柳本恵子】謎は謎のままの方が良いときもありますね。【吉見恵子】こんな感覚あるですね。「つまらぬ空」がうまく、脱力を感じました。【隆志】空の不思議さは、種あかしの必要性なし【ふぶき】まさか空が手のうちを見せるなんて。この意外性が楽しい。

【3点】特×1・佳×1

空論がプカプカ沼が澄んでくる 渡邊こあき

暖かい空を持ち込み要介護 夏草ふぶき

【旅男】空を持ち込むって素晴らしい。さわやかです。うぐいすの声をもち帰った話もあります。空には全てはいつていますね。

今日は咲く空の多忙は見ぬことに 吉田州花

【柳本恵子】今日は咲くというキリッとした決意にひかれました。やりたいこと沢山我慢の日々、早く終息しますように。

まだ青いレモンに青く五月晴 吉見恵子

【文音】青いレモンは子供か、自分か。どちらにしても青いレモンにさらに澄んだ五月晴れ。レモンの未来に青さを残して熟れていつて欲しいという願望だろうか。

【2点】佳×2

雲ひとつ無い空 友達いなくなる 小野五郎

【文音】雲のない空は友達がいない空と感じた。いや雲のない空は友達が窮屈だったのではない。【啓子】快晴 友達がたくさんというイメージを覆して意表をついた着地が面白い。雲は空の友達だったんですね。

【彰子】「空」の題で空論が飛び出す感性に先ずは驚いた。プカプカのオノマトペ、助詞のがを2個も畳み込まれてはお手上げだ。【いずみ】空論と沼の対比が絶妙。現実の諸々が沈んで沼は澄んでいる。

【2点】特×1

原爆を落とした国と同じ空 須藤しんのすけ

【規子】日本人が空を考える時、原爆はやはりはずせないのだから。あの戦争があつて結果負けたから今の日本があると云う人が時々いるが、日本の現状はアメリカの傘の下。未完成の民主主義。あの戦争を回避する方法は本になかったのか。

夕焼けに空気頭が萎んでる 笹田隆志

【啓子】藤枝静男の小説「空気頭」か？コロナ収束に自分ができることは何か。何もできてないじゃないか。と読んだ。

曇つても晴れても椿一直線 吉田州花

【さち】書き方は硬いけど、まわりに惑わされずに一直線に進むところが好きで羨ましい。こんな風に生きたい。

悔し泣きするとき空は深緑 宮井いずみ

【さち】悔しいときの空の色が深緑に納得。「とき」はなくてもいいかな。【冬鼓】涙こらえて見上げた空。深緑は作者独自の心象の色。

【1点】佳×1

散らかった夜空の隅の睡眠薬 柳本恵子

ミサイルが降らない空をいつまでも 村井規子

「月がきれい」地球の裏側からメール 柳本恵子

おとうとは何処にもいない茜空 熊谷冬鼓

さあ踊ろ下弦の月に誘われて 須藤しんのすけ

カタツムリのくせに空を飛びたがる 城後朱美

一度だけ三日月独り占めにした 吉田州花

十和田たてがみ川柳会五月句会

【参加者】漆館ミノリ・木村奈生美・久保あざみ・

斉藤蛙井・佐藤まさあき・瀧尻善英・中村英三・

福田芳記・村上昌子・高田幸柳

【投句者】磯島雅男・城後朱美

■席題 『るるん』 高田 幸柳 選

【平抜き】

妻の声るるん気分がさめてゆく
るるんと指切り約束君と僕
もうコロナ心配ないとなったとき
OKをされてるるんプロポーズ
フルムーンるるん気分持つ夫婦
るるんと伸びゆく蔓に初夏の夢
るるんと子供の様な留守の夫
るるんと弾まぬ五輪今日も雨
満点に弾む帰宅のランドセル
ハミングがつい出てしまう青い空

中村 英三
斉藤 蛙井
福田 芳記
佐藤まさあき
木村奈生美
斉藤 蛙井
村上 昌子
斉藤 蛙井
木村奈生美
瀧尻 善英

旅立ちの歓喜も夢も詰む荷物

木村奈生美

新婚の妻が待つてる急ぐ帰路

瀧尻 善英

アラビアの壺を持つてる妄想家

村上 昌子

【特選】

お守りが楽しく揺れるランドセル

瀧尻 善英

■席題 『るるん』 瀧尻 善英 選

【平抜き】

るるんがギクシヤクになる三年目
雨上がり孫るるんの運動会
ランドセルるるん弾む通学路
OKをされてるるんプロポーズ
初デートるるんとして衣装選る
プロポーズ受けてもらえたあの気分
体調良しさあ仕事頑張ろう
愛犬は散歩るるん尻尾ふる
楽しいな夢で洋画の中にいる

高田 幸柳
佐藤まさあき
高田 幸柳
佐藤まさあき
佐藤まさあき
福田 芳記
漆館ミノリ
久保あざみ
村上 昌子

さくら咲く気分高揚受験生

福田 芳記

旅立ちへ歓喜も夢も詰む荷物

木村奈生美

【秀逸】

もうコロナ心配ないとなったとき

福田 芳記

満点に弾む帰宅のランドセル

木村奈生美

【特選】

アラビアの壺を持つてる妄想家

村上 昌子

■宿題 『ルーキー』 村上 昌子 選

【平抜き】

新社員お局様に可愛がれ
ルーキーがピンチを背負うチーム事情
ルーキーに教わる今日の生きる知恵
ルーキーの新米ママは米を研ぐ
新人の笑顔咲かせた趣味の会
ルーキーの皆が伸び代持っている
進学で晴れて自炊の一垦打
ルーキーがファンの心を鷲掴み

佐藤まさあき
高田 幸柳
木村奈生美
久保あざみ
木村奈生美
福田 芳記
中村 英三
中村 英三

新人にパントマイムが通じない

磯島 雅男

70を過ぎても初心者句の集い

高田 幸柳

ルーキーがベテラン勢を奮起させ

瀧尻 善英

【特選】

標準語使い転校生が来る

瀧尻 善英

社の空気違うと辞職ルーキーズ

磯島 雅男

ルーキーと呼ばれ振り向く隣の子

城後 朱美

ルーキーがあれよあれよと雲の上

高田 幸柳

新社員花見のシートを敷いている

斉藤 蛙井

ルーキーがベテラン勢を奮起させ

佐藤まさあき

■宿題 『流転』 斉藤 蛙井 選

【平抜き】

風や雲のような流転にあこがれる
たんぼの綿毛流れる先はどこ
新人が流転の海で出世魚
人は言う住めばみやことたしかかも

漆館ミノリ
中村 英三
高田 幸柳
漆館ミノリ

■会費拝受【5月受付分】

石橋芳山 (島根県) / 芝岡かんえもん (神奈川県)

■おかげょうき川柳社会員募集中!

会員ならびに当誌購読希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名：おかげょうき川柳社

→会費：6,000円 (1年分)

おかげょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759

〒039-3502 青森市久栗坂浜田 87-2

●投句全般についてはこちらへ●

守田啓子 moriko@okajoki.com

終着駅 Sin

◆青森津軽を舞台とした映画「いとみち」が青森県で先行上映された。私はまだ観ることが出来ていないが、母が病院ついでに観てきたらしい。夕食時、その感想なんかを聞いてみたが、やはり地元を舞台とした映画のためか、リアルさに気を取られるらしい。「いく板柳町の女子高生とはいえ、あんなネイティブな津軽弁を話すだろうか?」とか、「青森市にメイドカフェってあるの?」とか、「今どき、地図を見ながら青森市を歩く?」などなど、である。ただ、「泣いたことは泣いた」って言っていた(笑)ま、どんな職業ドラマでも、事実と違うと騒ぐ人がいるが、たぶん、そういう人は創作というものをしたことがない人なのだろう◆この手の話で頭に浮かぶのは、『曾根崎心中』で知られる、江戸中期の歌舞伎狂言・浄瑠璃の作者、近松門左衛門(←何度、テストで書いた名前だろう(笑))の

『虚実皮膜論』である。〈芸といふものは実と虚との皮膜の間にあるもの也。……虚にして虚にあらず、実にして実にあらず、この間に慰が有たもの也〉というものだ。私も嘘や真実だけ書くだけでは、表現としてつまらないと思っている。その嘘とリアルの間でどう遊ぶのかが、表現の醍醐味であり、川柳での勝負処だと思っている。ただ、最初のうちはどうしても「本当に嘘を混ぜる」という意識が強くなるが、最近は、「虚に本当を少し混ぜる」というスタンスにしてみている(結果はどうなるかわからないが(笑))。ま、さまざまな芸術ジャンルで引用される近松門左衛門の「虚実皮膜論」なのだろうから、あなたが間違っではないのかなとは思いますが◆青森在住の人は、どうかこの「虚実皮膜論」を念頭に置いて映画「いとみち」を楽しんで欲しいと思う(笑)◆ Sin

『アウガ川柳教室』のお知らせ

【場所】青森駅前「アウガ」5階

【日時】毎月2回 第2・4火曜日13時~14時半

【講師】おかげょうき川柳社 代表 むさし

【受講料】1回 500円

□ 7/13(火)「包む」 □ 7/27(火)「泡」 □ 8/10(火)「絞る」

□ 8/24(火)「葉」 □ 9/14(火)「はらはら」 □ 9/28(火)「粒」

●投句先：〒030-1212 青森県東津軽郡蓬田村阿弥陀川字汐干 43-3
むさし宛 / TEL.0174-27-2008 / E-mail : hmusashi@r66.7-dj.com

おかじょうき川柳社 作品募集案内

□ 2021.07.14 「川柳吟行会 ぼ」7月句会

【投句締切】7月14日(第2水曜日)【題・投句数】「星」3句【合評会】7月21日(第3水曜日)アウガ5階で14:30～【投句先】toko@okajoki.com
熊谷冬鼓宛 *それぞれの地で一人吟行して作句し投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。選評等は後日月刊おかじょうきに掲載。メール交換できる方なら会員以外でも参加可。

□ 2021.07.20 おかじょうき会員雑詠集「無人駅」5句(9月号分)

【締切】7月20日15時必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句(最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入)【掲載】9/10発行号【ウェブサイトからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/mujineki.html>
【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛

□ 2021.08.07 おかじょうき川柳社本社8月句会

【時】8月7日(土)午後1時～【所】アウガ5階小会議室【投句締切】8月6日(金)15時【宿題】(各題3句詠)『波』/『走る』/『自由詠』選者は当日の参加者より選出【席題】1題3句詠・2人共選【川柳ラボ】互選句「記号を使った句」1句【ウェブサイトからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/> 【メールで直接送信投句】moriko@okajoki.com (守田啓子) ■投句、句会参加はおかじょうき川柳社会員のみとし、句会参加の際は新型コロナ感染対策に協力願います。

□ 2021.08.11 「川柳吟行会 ぼ」8月句会

【投句締切】8月11日(第2水曜日)【題・投句数】「寺」3句【合評会】8月18日(第3水曜日)アウガ5階で14:30～【投句先】toko@okajoki.com
熊谷冬鼓宛 *それぞれの地で一人吟行して作句し投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。選評等は後日月刊おかじょうきに掲載。メール交換できる方なら会員以外でも参加可。

□ 2021.09.04 おかじょうき川柳社本社9月句会

【時】9月4日(土)午後1時～【所】アウガ5階小会議室【投句締切】9月3日(金)15時【宿題】(各題3句詠)『火』/『拾う』/『自由詠』選者は当日の参加者より選出【席題】1題3句詠・2人共選【川柳ラボ】互選句「破調で作った句」1句【ウェブサイトからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/> 【メールで直接送信投句】moriko@okajoki.com (守田啓子) ■投句、句会参加はおかじょうき川柳社会員のみとし、句会参加の際は新型コロナ感染対策に協力願います。

